

# 3年 道徳

主題名	正しいと思うことは自信をもって		
中心内容項目	A-1 主として自分自身に関する事(善悪の判断) 「二つの声」		
	令和元年	7月3日	2校時
	児童	3年 1組	33名
	授業者	小林 香織	

## 1 主題設定の理由

### (1) ねらいとする道徳的価値(教師の価値観)

社会に生きる人間として、やっていいこととやってはいけないことをしっかり区別して判断する力は、児童が幼い時期に身に付けるべき力である。現実には正しいと思っても、人は様々な状況で損得を考えたり、周りの人の反応を気にしたりすることによって、行動が左右されてしまうことがよく起きる。迷いやためらいに負けず、自分の考えに自信をもって正しいことをしたり、正しくないことをやめたりしようとする心情を育てるために、だれもが二つの心をもっていて悩むことがあり、その中で悩みながらも、正しいことを自信をもって行うことの心地よさを感じさせたい。

### (2) 児童の実態(児童観)

本学級の子ども達は、3年生としての自覚の高まりと同時に、物事に対して自分なりの判断ができるようになり、自分や他人の言動をみつめることができるようになってきている。周りを気にして、正しいことを行おうとする児童が見られるようになり、友達がよくないことをしていると、注意する子ども達もいる。しかし、仲間意識が強くなり、やってはいけないとわかっている、強い言動の児童に引っ張られたり、怒られたくないからごまかしてしまったり、嫌われたくないから口裏合わせをしてしまったりすることもある。人は、間違ってしまうことがあったり、失敗してしまったりすることがあるが、その時にどう行動したらよいか、悩みながらも正しいことを自信をもって行おうとする気持ちを育てたい。

### 【事前アンケート】

内容	結果
例えば・・・ 友だちに「学校の帰り道、寄り道しよう」とさそわれたら、あなたはどうしますか	32名かいないと回答 ・ことわる。 ・学校のルールをやぶったらだめと言う。 ・一人で行ってと言う。 ・つれて帰る。
「こうしたほうがいい」とわかっているけども行動できない時はありますか	ある・・・14人 ない・・・18人 ・ゲームをしていて時間になったけれど、あと4分だからいいでしょと思って4分間やった。 ・廊下を走った人に「ろうかを走らないでね」といいたかったけど、怒ったらこまる。 ・あやまろうと思ってもあやまれなかった。 ・学校の帰り道、きつねがいて、おいかけようといわれた時。 ・どうしてもやってしまうときがある。 ・お母さん、お父さんかいない時おうちに友達をいらせてしまった時。 ・お母さんに宿題やりなさいと言われる前にやろうと思ったができなかった。 ・「おふろにはいって」と言われた時すぐには入れなかったこと。

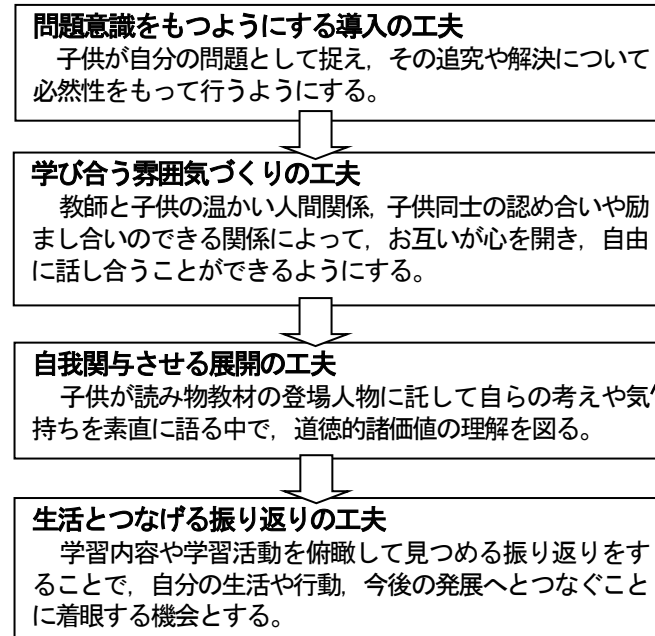
### (3) 教材への思い(教材観)

教室で花瓶を割ってしまった正二が、自分の失敗を正直にいうべきか、見て見ぬふりをして自分に意地悪をした友達に責任を負わせるのか、という二つの声に主人公が悩ませるといふ葛藤が描かれた教材である。この資料を通して、人はだれもが良い声と悪い声になやまされることがあること、そして、悩んだ時には、自分の損得や人の目に惑わされずに自分が正しいと思うことを信じてやることよさに気づかせたい。そして、自分の生活を振り返り、良いことと悪いことを見極め、自分の正しいと信じることに従って行動しようとする気持ちを深めていきたい。

## 2 総合単元ユニットとの関係

「自分さえよければそれでいい。相手のことは関係ない。なるべく怒られたくない。」そんな思いからか、友達と関わろうとしない、周りを見ない様子が見られた子ども達。少しずつ「周囲への心配り」ができるようになってきた。この学習を通して「自分がやっていることは正しいことなんだ」もしくは「やっぱり正しいことをしたほうがいいな」などの思いを感じさせ、今後の学校生活につなげてあげたい。

## 3 研究との関わり



## 4 本時の学習

### (1) 本時のねらい

- ・二つの心の声に悩む姿から、自らが正しいと信じる場所に従って、行動しようとする気持ちを育てる。

### (2) 本時の展開

	活動内容・予想される児童の反応 (○発問 ◎中心発問)	教師の支援・評価・研修との関わり ●支援 □評価指標 ◎研修との関わり
価値への方向付け	<b>1 ねらいとする道徳的価値に対する興味・関心を高め、「主題」を設定する</b> ○廊下を走っている人を見かけたらどうしますか。それはどうしてですか。 ・注意する → 学校の約束だから あぶないから 約束は守らないといけないから ○なぜ、廊下に「走らないでね」と書かれたポスターが貼ってあるのでしょうか。 ・走ってしまう人がいるから ・ついついやってしまうから (問題意識をもたせる) ○正しいことがわかっているのに、なぜ行動できないのだろうか。 <b>《本時の主題》</b> <b>正しいと思うことを、行動する心について考えよう</b>	●学び合う雰囲気づくりを行う。 ◎ある日常の場面を提示し、生活に結び付けながら課題に迫る。
	<b>2 教材「二つの声」を通して、「主題」を追求する</b> ○このお話を読んで、どう思いましたか。 ・だめだと思う。 ・二つの声を聞いて悩んでいるけど、言った方がいいと思った。 ・二つの声が聞こえているってどうしてかなと思った。 ○自分だったら悩みますか。なぜ、正二君は悩んだのだろう。 ・自分だったら悩まない。 ・悩むと思う。正二君も本当は言った方がいいとわかっているけど、言えないのだと思う。	●「お話の中の正二君に何が合ったのか」と教材をよむ視点を与える。 ●正二君の置かれている状況や言動、言動を生む心が分かりやすいように板書を図式化し、子供たちの思考を助けるように構成する。
	◎正二君にアドバイスをするなら、どんなことを伝えますか。 ・やっぱり正しいことをしたらいいよ。 ・怒られるかもしれないけど、ちゃんどいったほうがいいよ。 ・友だちに何か言われるかもしれないけど、言った方がいいよ。 ○正二君がみんなのアドバイス通り行動するために、どんな気持ちが必要だと思いますか。 ・正直に話す気持ち。 ・勇気をだす気持ち。	◎正二君の思いに共感させながら、アドバイスを考えさせることにより、主題に迫る。
	<b>《共通解》</b> ・正しいと思ったことは、勇気をだして行った方がいい。	
価値の自覚	<b>3 資料から離れ、自分自身の問題として深めたり広げたりする</b> ○「こうしたほうがいい」と思っているのに行動できなかった時はありますか。(意見が出なかった場合、事前アンケートを使用する) ・ゲームをしていて、時間になったけどやめられなかった。 ・あやまろうとおもったけど、あやまれなかった。 など	●子供たちが、学習したことと日常生活とのつながりを意識できるように、アンケートを提示する。 ◎本時の学習で学んだことについて、自分のこれまでとのつながりや、これからの生き方にどのように生かすことができるかを考える
	<b>4 価値について整理、まとめ、意欲を図る</b> ・教師の説話(子どもの日常のいいところ) ※ 本時の学習を振り返り、感想をワークシートにまとめる。 ・これまでの自分は～。 ・これからの自分は～。	□正しいと思ったことは勇気をだして行おうとする意欲をもつことができたか。 【発言・ノート】
意欲化		